

8.7 景観

8.7.1 調査事項

調査事項は、表 8.7-1 に示すとおりである。

表8.7-1 調査事項(東京2020大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 主要な景観の構成要素の改変の程度及びその改変による地域景観の特性の変化の程度 ・ 景観形成特別地区の景観阻害又は貢献の程度 ・ 代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度 ・ 貴重な景勝地の消滅の有無又は改変の程度 ・ 圧迫感の変化の程度 ・ 緑視率の変化の程度 ・ 景観阻害要因の変化の程度
予測条件の状況	・ 計画建築物の状況(配置、形状、高さ等) ・ 緑化計画
ミティゲーションの実施状況	・ 最大8万席となる観客席をコンパクトに配置し、フラットな屋根架構により建物高さを約50mとし、周辺の景観に調和する計画としている。 ・ 最外周柱の最上部を内側に傾斜させて、周辺の圧迫感を軽減する計画としている。 ・ 日本の伝統的な建築を想起させる、連続する軒庇の水平ラインと深い陰影によって、周辺の木々と調和した外観とする計画としている。 ・ 屋根の庇や軒庇の見上げ部は全周を連続した縦格子で仕上げる計画としている。外壁を「面」ではなく「線」で構成することにより、「和」を想起させる繊細な陰影が周囲の木々に溶け込み、長大な屋根や壁面による圧迫感を軽減させる計画としている。 ・ 軒庇の連続した縦格子により、日本建築の要素である垂木を想起させる外観を形成する計画としている。水平方向にも高さ方向にも展開した「繰り返し」の構成により、日本らしさをより強調する計画としている。 ・ 外周の低層部は水平に伸びる軒庇と鉛直柱の構成とし、軸組によって生まれた、陰影のある印象的な日本らしい外観とする計画としている。 ・ 各軒庇上部にはプランターを配置し、日本の野草など四季を感じることが可能な計画としている。 ・ 「大地の杜」として、周囲の多様なみどりの景観に合わせ、聖徳記念絵画館外周などのまとまった緑に隣接する計画地東・北側は階層構造の樹林構成の緑地とし隣接する緑との連続する緑を創出(「深緑の杜」)、広いオープンスペースの南側は大地に大樹となる樹木を植栽し大きな緑が人を迎え入れる空間を創出(「大樹の里庭」)、街に隣接する西側は渋谷川の記憶の継承と親しみのある里庭の景観を創出(「水辺の里庭」)することで周囲の多様な景観との調和を図る計画としている。計画建築物5階には、「大地の杜」と行き来できる「空の杜」として、ススキや彩りある草花、花木を連続させ、計画地の原風景のおおらかさを想起させる空中の庭園を整備する計画としている。 ・ 木の縦格子には国産のスギの規格材を採用する計画としている。設置箇所は軒裏などの雨がかりの少ない部分とし、さらに加圧注入処理(K3仕様)とし、耐久性を高め美観を維持する計画としている。 ・ 外周に壁がないことで、日本の気候風土を活かした風通しの良い空間を創出する計画としている。彫の深い軒下は、「木漏れ日」のような陰と緑を望める縁側状の空間を創出する計画としている。 ・ 植栽樹種は、計画地の潜在自然植生や代償植生の構成種を中心に選択するとともに、既存樹木の保存、移植利用を積極的に行い、周囲のみどりの景観との調和を図った植栽計画としている。 ・ 花がら摘み、つるの誘引、スポット灌水、花後の施肥、枯枝整理、支柱調整を行い、季節感や原風景のおおらかさなど特徴ある風景をつくる。 ・ 緑化植栽後の樹木の状況(植栽状況、生育状況等)、植栽散水、剪定、施肥等の維持管理の実施状況について確認し、必要に応じて適切な追加対策を講じることにより、良好な景観の保持に努める計画としている。また、緑の状況については、フォローアップ調査で確認する。

8.7.2 調査地域

調査地域は、計画建築物を眺望することができる計画地及びその周辺とした。

8.7.3 調査手法

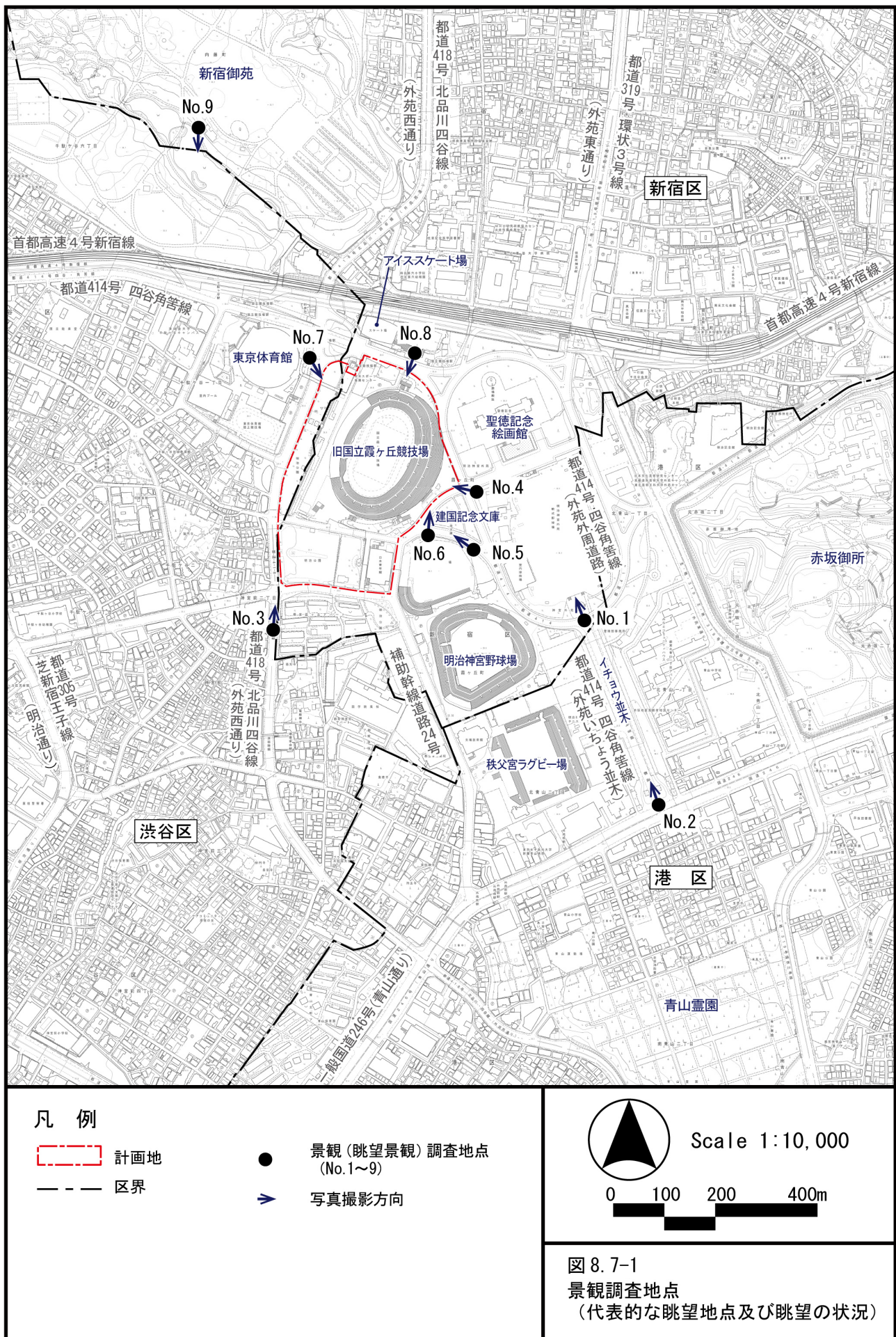
調査手法は、表 8.7-2(1) 及び(2)に示すとおりである。

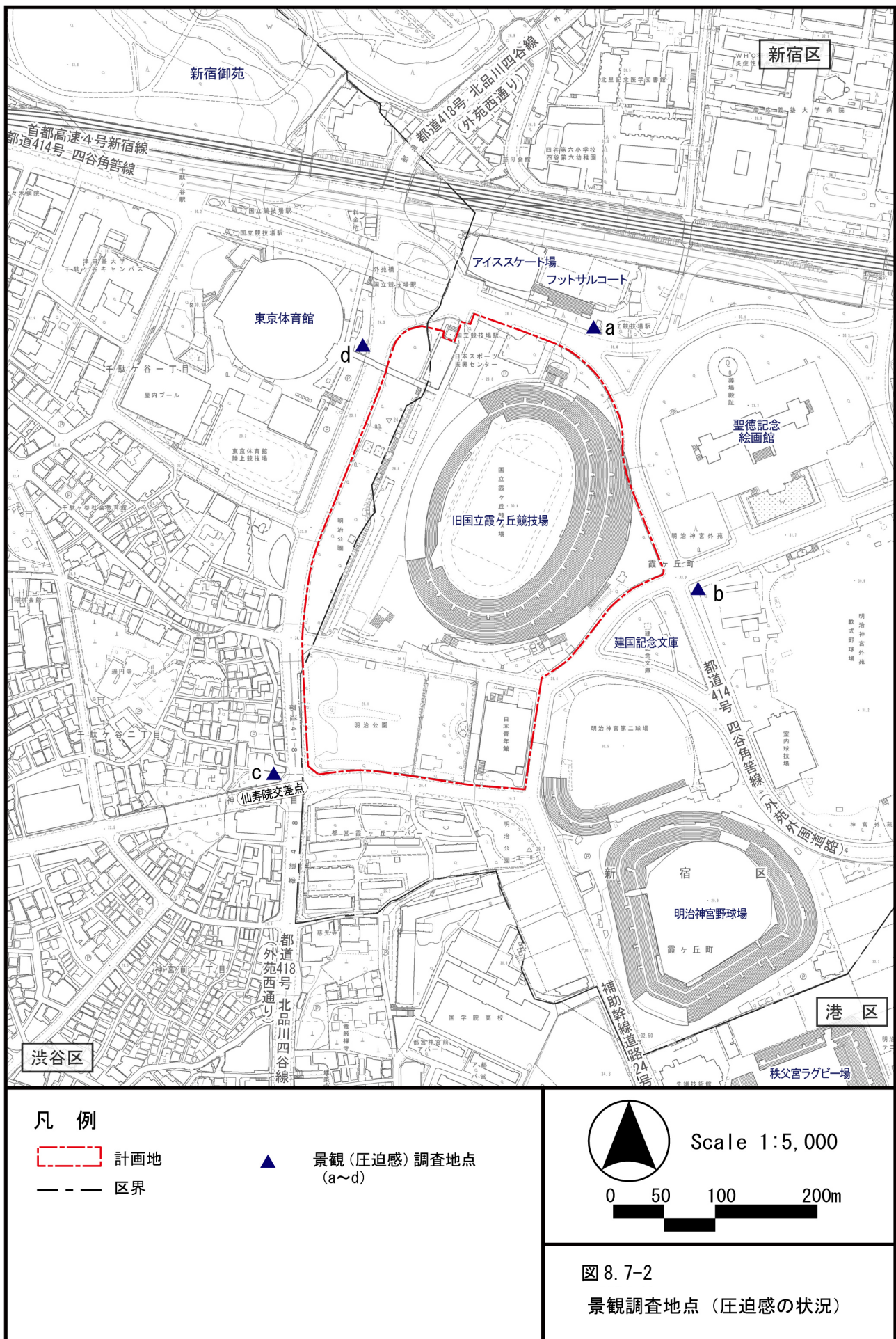
表8.7-2(1) 調査手法(東京2020大会の開催後)

調査事項		主要な景観の構成要素の改変の程度及びその改変による地域景観の特性の変化の程度	代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度
調査時点		東京2020大会開催後とした。	
調査期間	予測した事項	東京2020大会開催後とした。	
	予測条件の状況	東京2020大会開催後とした。	
	ミティゲーションの実施状況	東京2020大会開催後とした。	
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とした。	予測地点と同様の9地点(図8.7-1に示す地点No. 1～9)とした。
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とした。	
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とした。	
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影)及び評価書の予測結果と比較する方法とした。	
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影)及び関係資料の整理による方法とした。	
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影)及び関係資料の整理による方法とした。	

表8.7-2(2) 調査手法(東京2020大会の開催後)

調査事項		圧迫感の変化の程度	緑視率の変化の程度	景観阻害要因の変化の程度
調査時点		東京2020大会開催後とした。		
調査期間	予測した事項	東京2020大会開催後とした。		
	予測条件の状況	東京2020大会開催後とした。		
	ミティゲーションの実施状況	東京2020大会開催後とした。		
調査地点	予測した事項	予測地点と同様の4地点(図8.7-2に示す地点No. a～d)とした。	予測地点と同様の9地点(図8.7-1に示す地点No. 1～9)とした。	
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とした。		
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とした。		
調査手法	予測した事項	天空写真を撮影し、形態率を算出する方法とした。	現地調査(写真撮影)及び評価書の予測結果と比較する方法とした。	
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影)及び関係資料の整理による方法とした。		
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影)及び関係資料の整理による方法とした		





8.7.4 調査結果

(1) 調査結果の内容

1) 予測した事項

ア. 主要な景観の構成要素の改変の程度及びその改変による地域景観の特性の変化の程度

計画地は、明治神宮外苑と隣接し、日本の伝統的な建築を想起させる、連続する軒庇の水平ラインと深い陰影によって、周辺の木々と調和した外観となっている。軒庇の連続した縦格子により、日本建築の要素である垂木を想起させる外観を形成し、水平方向にも高さ方向にも展開した「繰り返し」の構成により、日本らしさをより強調している。

また、「大地の杜」として、周囲の多様なみどりの景観に合わせ、聖徳記念絵画館外周などのまとまった緑に隣接する計画地東・北側は階層構造の樹林構成の緑地とし隣接する緑との連続する緑を創出（「深緑の杜」）、広いオープンスペースの南側は大地に大樹となる樹木を植栽し大きな緑が人を迎え入れる空間を創出（「大樹の里庭」）、街に隣接する西側は渋谷川の記憶の継承と親しみのある里庭の景観を創出（「水辺の里庭」）され、周囲の多様な景観との調和が図られている。計画建築物5階には、「大地の杜」と行き来できる「空の杜」として、ススキや彩りある草花、花木を連続させ、計画地の原風景のおおらかさを想起させる空中の庭園が整備されている。

イ. 代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度

代表的な眺望地点からの、眺望の事後調査の結果は、写真 8.7-1～写真 8.7-9（下段の写真、p. 102～110 参照）に示すとおりである。

計画建築物周囲の主要な眺望点からの眺望については、計画建築物が視野に占める割合は増加する。計画建築物は、日本の伝統的な建築を想起させる、連続する軒庇の水平ラインと深い陰影によって、周辺の木々と調和した外観となっている。また、「大地の杜」として、周囲の多様なみどりの景観に合わせ、聖徳記念絵画館外周などのまとまった緑に隣接する計画地東・北側は階層構造の樹林構成の緑地とし隣接する緑との連続する緑を創出（「深緑の杜」）、広いオープンスペースの南側は大地に大樹となる樹木を植栽し大きな緑が人を迎え入れる空間を創出（「大樹の里庭」）、街に隣接する西側は渋谷川の記憶の継承と親しみのある里庭の景観を創出（「水辺の里庭」）され、周囲の多様な景観との調和が図られている。計画建築物5階には、「大地の杜」と行き来できる「空の杜」として、ススキや彩りある草花、花木を連続させ、計画地の原風景のおおらかさを想起させる空中の庭園が整備されている。これらのことから、周囲の多様なみどりの景観に調和した景観が形成されている。

予測結果	 (独) 日本スポーツ振興センター提供資料
フロアアップ調査結果	
予測結果 フロアアップ調査結果	: 計画建築物の一部が樹木の後背に視認できる。計画建築物の出現により、建築物の占める割合は増加する。 : 計画建築物の一部が樹木の後背に視認できる。計画建築物は、ほぼ予測どおりの位置に視認されている。 

写真 8. 7-1 眺望の状況 (No. 1 : 噴水前)

予測結果	 (独) 日本スポーツ振興センター提供資料
フロアアップ調査結果	
予測結果 フロアアップ調査結果	: 計画建築物は、イチョウ並木及びイチョウ並木沿道の建物によって視認することができない。 : 計画建築物は、予測どおり、イチョウ並木及びイチョウ並木沿道の建物によって視認することができない。 

写真 8.7-2 眺望の状況(No.2 : 青山口)

予測結果	 (独) 日本スポーツ振興センター提供資料
フォローアップ調査結果	
予測結果 フォローアップ調査結果	: 計画建築物が正面に視認できる。計画建築物の出現により、現況よりも建築物の占める割合は増加する。 : 計画建築物が正面に視認できる。ほぼ予測どおりの位置に視認されている。計画建築物の出現により、現況よりも建築物の占める割合は増加する。 

写真 8.7-3 眺望の状況 (No.3 : 仙寿院交差点)

予測結果	 (独) 日本スポーツ振興センター提供資料
フロアアップ調査結果	
予測結果 フロアアップ調査結果	: 計画建築物が正面に視認できる。視野に占める建築物の割合は大きく変化しない。 : 計画建築物が正面に視認できる。ほぼ予測どおりの位置に視認されている。 

写真 8.7-4 眺望の状況 (No. 4 : 聖徳記念絵画館西)

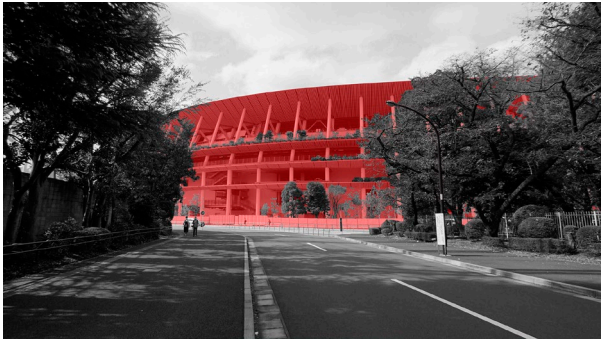
予測結果	 (独) 日本スポーツ振興センター提供資料
フロアアップ調査結果	
予測結果 : 計画建築物が正面に視認できる。 計画建築物の出現により、建築物の占める割合は増加する。 フロアアップ調査結果 : 計画建築物が正面に視認できる。 ほぼ予測どおりの位置に視認されている。	

写真 8. 7-5 眺望の状況 (No. 5 : 明治神宮第二球場北東)

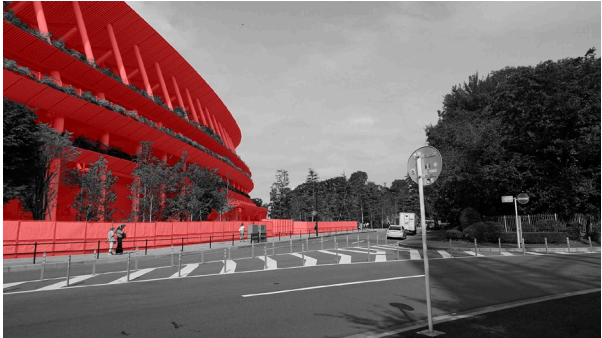
予測結果	 (独) 日本スポーツ振興センター提供資料
フロアアップ調査結果	
予測結果 フロアアップ調査結果	: 樹木越しに計画建築物の一部が視認できる。視野に占める建築物の割合は大きく変化しない。 : 樹木越しに計画建築物の一部が視認できる。ほぼ予測どおりの位置に視認されている。 

写真 8.7-6 眺望の状況 (No. 6 : 明治神宮第二球場北)

予測結果	 (独) 日本スポーツ振興センター提供資料
フロアアップ調査結果	
予測結果 : 計画建築物が正面に視認できる。 計画建築物の出現により、建築物の占める割合は増加する。 フロアアップ調査結果 : 計画建築物が正面に視認できる。 計画建築物は、ほぼ予測どおりの位置に視認されている。	

写真 8.7-7 眺望の状況 (No.7 : 外苑橋交差点)

予測結果	 (独) 日本スポーツ振興センター提供資料
フォローアップ調査結果	
予測結果 フォローアップ調査結果	: 計画建築物が正面に視認できる。 計画建築物の出現により、建築物の占める割合は増加する。 : 計画建築物が正面に視認できる。 ほぼ予測どおりの位置に視認されている。 

写真 8.7-8 眺望の状況 (No. 8 : 旧フットサルコート前)

予測結果	 (独) 日本スポーツ振興センター提供資料
フォローアップ調査結果	
予測結果 : 計画建築物は、新宿御苑内の樹木等によって視認することができない。 フォローアップ調査結果 : 計画建築物は、予測どおり、新宿御苑内の樹木等によって視認することができない。	

写真 8.7-9 眺望の状況 (No.9 : 新宿御苑)

ウ. 圧迫感の変化の程度

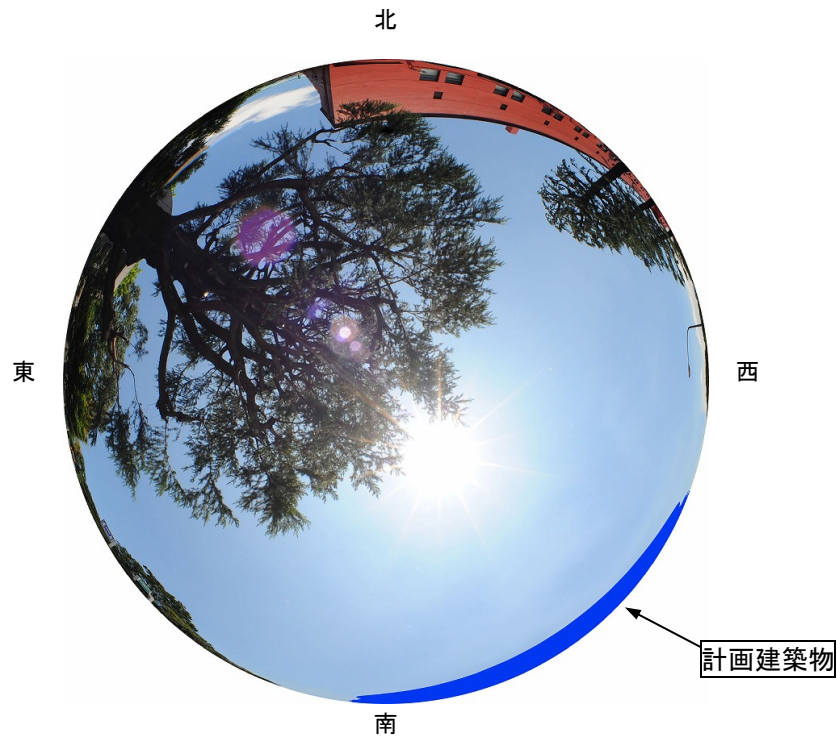
調査地点における計画建築物に対する形態率の変化の程度は、表 8.7-3 及び写真 8.7-10～写真 8.7-13 に示すとおりである。

形態率の変化の程度は、計画地及び計画地周辺北側の建物の新築により、No.a 地点では約 3.4 ポイント、No.d 地点では約 1.8 ポイントの増加であった。

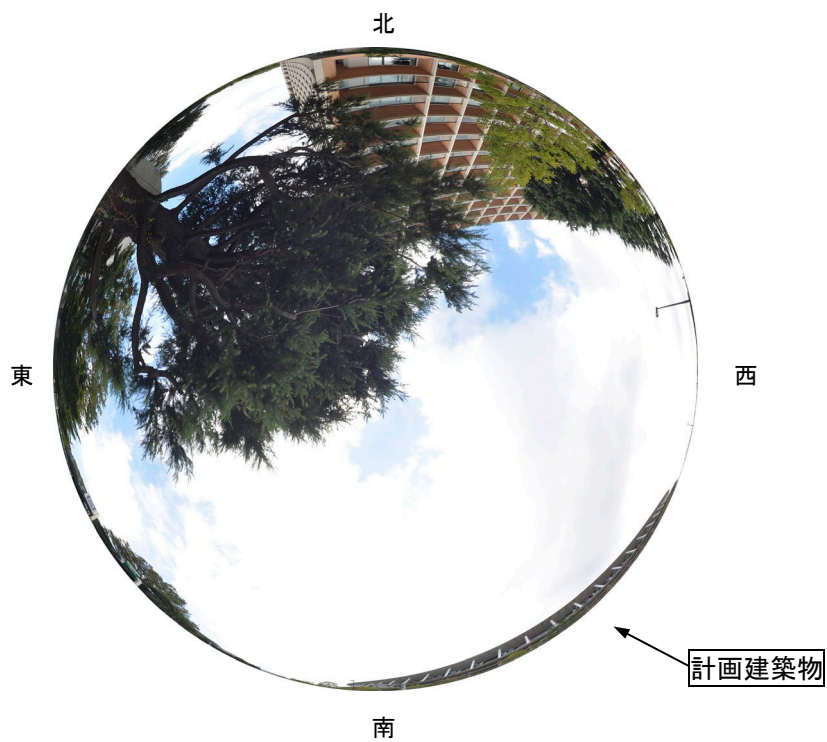
表 8.7-3 計画建築物による形態率

予測地点		形態率				
		事前調査	予測結果		フォローアップ調査結果	
			既存建築物 及び 計画建築物	変化量	既存建築物 及び 計画建築物	変化量
a	フットサルコート前	約 5.0%	約 6.4%	約 1.4 ポイント増	約 8.4%	約 3.4 ポイント増
b	聖徳記念絵画館西	約 2.5%	約 2.1%	約 0.4 ポイント減	約 1.9%	約 0.6 ポイント減
c	仙寿院交差点	約 28.4%	約 29.8%	約 1.4 ポイント増	約 27.3%	約 1.1 ポイント減
d	東京体育館東	約 5.7%	約 8.3%	約 2.6 ポイント増	約 7.5%	約 1.8 ポイント増

注) 調査地点の番号は、図 8.7-2 (p. 100 参照) に対応する。



[予測結果]



[フォローアップ調査結果]

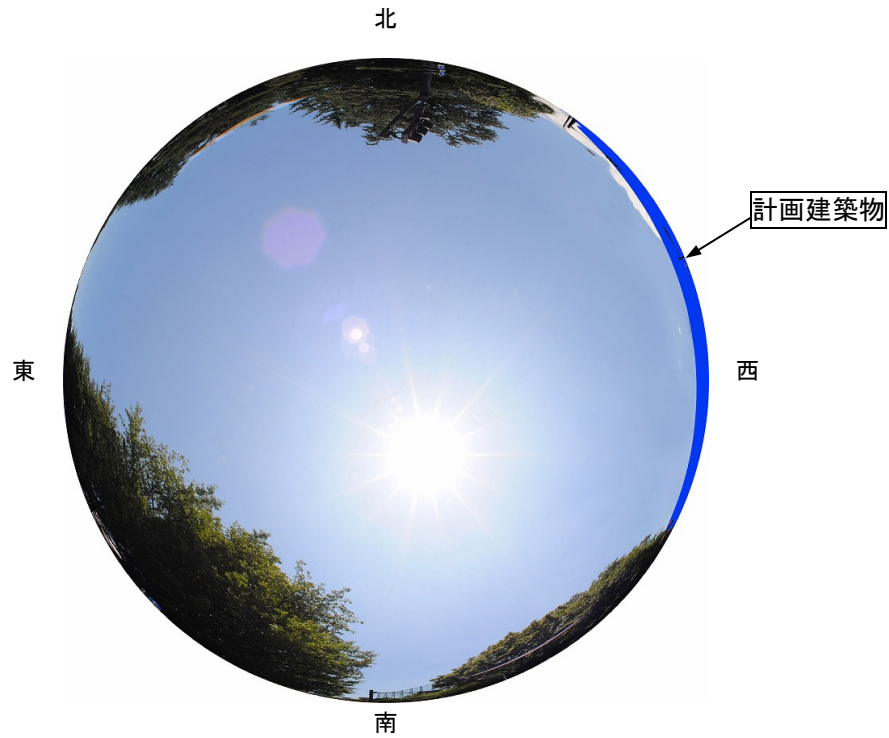
予測結果

南側から西側にかけて計画建築物が見える。樹木を除いた建築物の形態率は約 6.4% となり、現況と比較して約 1.4 ポイントの増加となる。

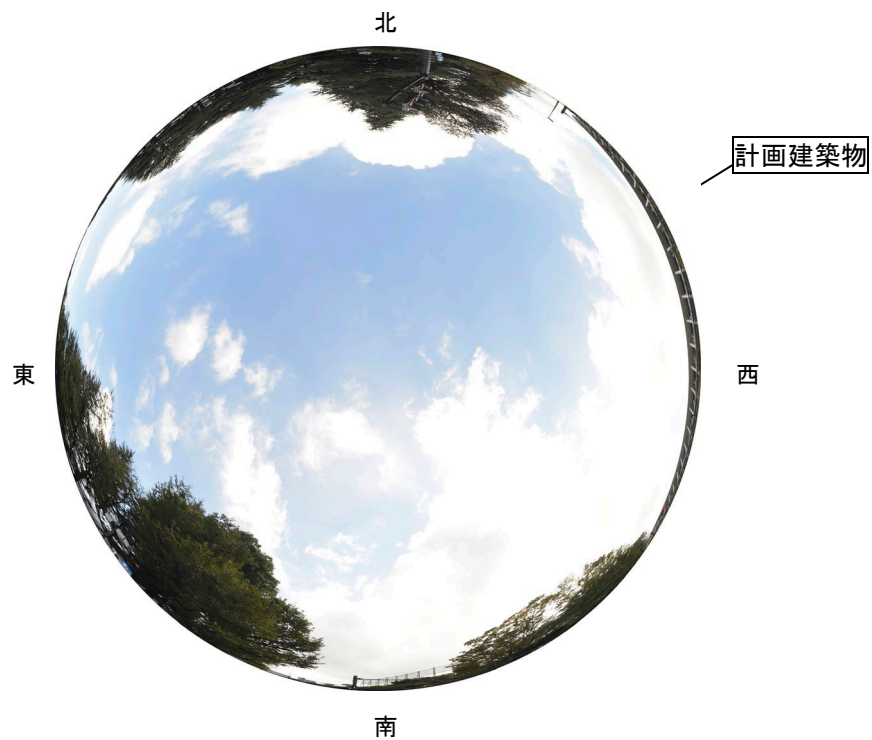
フォローアップ調査結果

予測のとおり、南側から西側にかけて計画建築物が見える。樹木を除いた建築物の形態率は約 8.4% となり、現況と比較して約 3.4 ポイントの増加、予測結果と比較して約 2.0 ポイントの増加となる。なお、フォローアップ調査の形態率は、計画地周辺北側の建物の新築により予測結果を上回った。

写真 8.7-10 天空写真(a 地点：旧フットサルコート前)



[予測結果]



[フォローアップ調査結果]

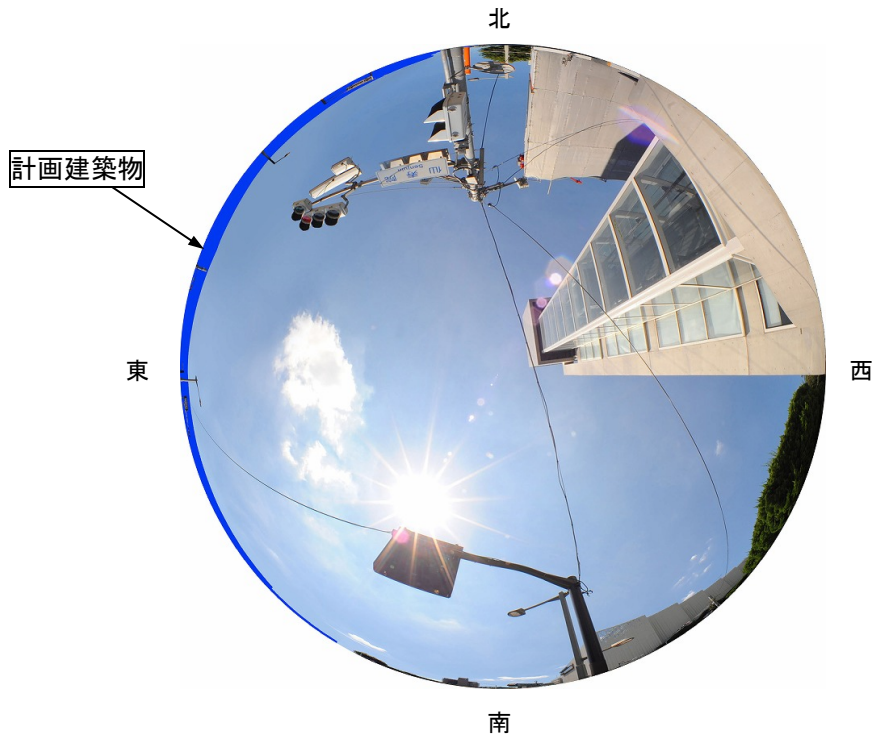
予測結果

旧国立霞ヶ丘競技場に代わり計画建築物が見える。樹木を除いた建築物の形態率は約 2.1% となり、現況と比較して約 0.4 ポイントの減少となる。

フォローアップ
調査結果

予測のとおり、旧国立霞ヶ丘競技場に代わり計画建築物が見える。樹木を除いた建築物の形態率は約 1.9% となり、現況と比較して約 0.6 ポイントの減少、予測結果と比較して約 0.2 ポイントの減少となる。

写真 8.7-11 天空写真 (b 地点：聖徳記念絵画館西)



[予測結果]



[フォローアップ調査結果]

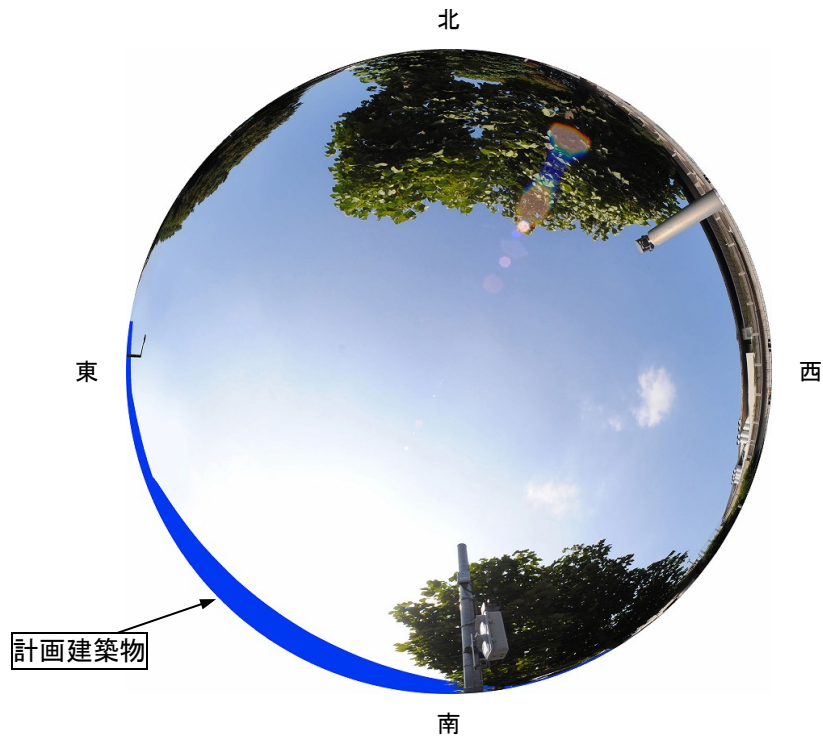
予測結果

南東から北にかけて計画建築物が見える。樹木を除いた建築物の形態率は約 29.8% となり、現況と比較して約 1.4 ポイントの増加となる。

フォローアップ
調査結果

予測のとおり、南東から北にかけて計画建築物が見える。樹木を除いた建築物の形態率は約 27.3% となり、現況と比較して約 1.1 ポイントの減少、予測結果と比較して約 2.5 ポイントの減少となる。なお、フォローアップ調査の形態率は、計画地北側の建築物の変化や南側の道路標識の撤去等により予測結果を下回った。

写真 8.7-12 天空写真(c 地点：仙寿院交差点)



[予測結果]



[フォローアップ調査結果]

予測結果	南側から東側にかけて計画建築物が見える。樹木を除いた建築物の形態率は約 8.3% となり、現況と比較して約 2.6 ポイントの増加となる。
フォローアップ調査結果	予測のとおり、南側から東側にかけて計画建築物が見える。樹木を除いた建築物の形態率は約 7.5% となり、現況と比較して約 1.8 ポイントの増加、予測結果と比較して約 0.8 ポイントの減少となる。

写真 8.7-13 天空写真(d地点：東京体育館東)

エ. 緑視率の変化の程度

代表的な眺望地点からの、現況と将来の緑視率の変化の程度は、表 8.7-4 及び写真 8.7-14 ～写真 8.7-20 に示すとおりである。

緑視率の変化の程度は、計画地及び計画地周辺の植生の生育状況により、No. 3 及びNo.5～8 地点では約 1.9～14.4 ポイント減少し、No.4 地点では約 2.9 ポイントの増加であった。

表 8.7-4 緑視率の変化の程度

調査地点	事前調査	予測結果		フォローアップ調査結果	
		周辺環境及び 計画建築物	変化量	周辺環境及び 計画建築物	変化量
No. 1	約 40.9%	約 40.9%	約 0 ポイント	約 40.9%	約 0 ポイント
No. 3	約 27.0%	約 17.9%	約 9.1 ポイント減	約 12.6%	約 14.4 ポイント減
No. 4	約 11.6%	約 24.4%	約 12.8 ポイント増	約 14.5%	約 2.9 ポイント増
No. 5	約 55.1%	約 54.6%	約 0.5 ポイント減	約 42.3%	約 12.8 ポイント減
No. 6	約 27.2%	約 36.6%	約 9.4 ポイント増	約 25.3%	約 1.9 ポイント減
No. 7	約 36.5%	約 14.7%	約 21.8 ポイント減	約 33.8%	約 2.7 ポイント減
No. 8	約 22.5%	約 21.1%	約 1.4 ポイント減	約 8.7%	約 13.8 ポイント減

注) 地点番号は、図 8.7-1 (p. 99) に対応する。

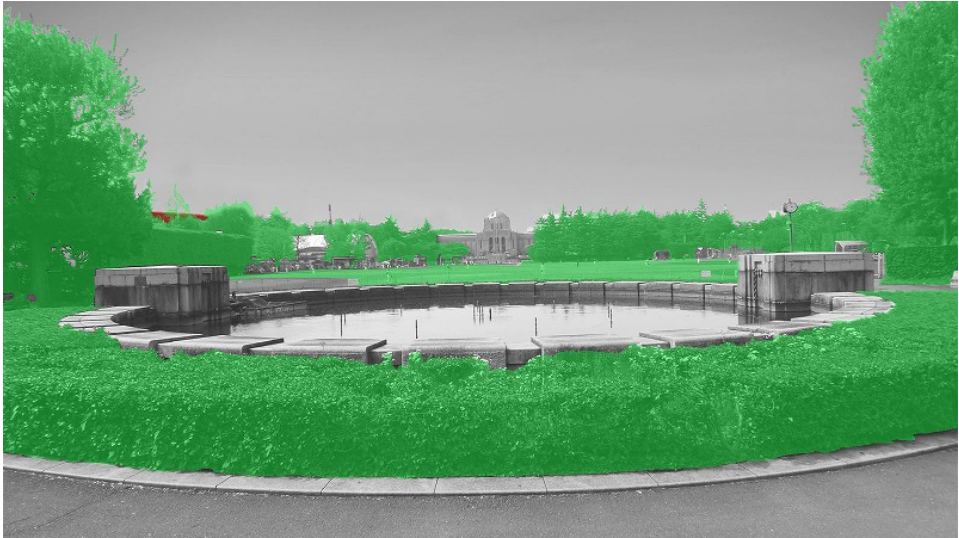
予測結果	 (独) 日本スポーツ振興センター提供資料を基に作成
フォローアップ調査結果	
予測結果	計画建築物の一部が樹木の後背に視認できる。計画建築物の出現により、建築物の占める割合は増加するが、緑視率はほとんど変わらない。
フォローアップ調査結果	予測のとおり、計画建築物の一部が樹木の後背に視認できる。緑視率は、現況と比較してポイントの増減はなく、予測結果と比較してもポイントの増減はなかった。調査結果は、予測結果のとおりであった。

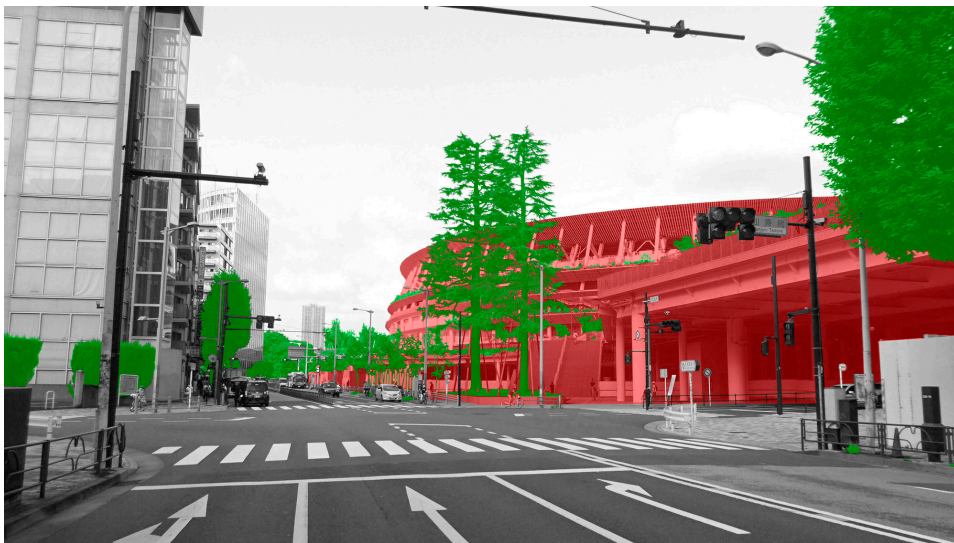
写真 8.7-14 緑視率の状況 (No.1 : 噴水前)

予測結果



(独) 日本スポーツ振興センター提供資料を基に作成

フォローアップ調査結果



予測結果

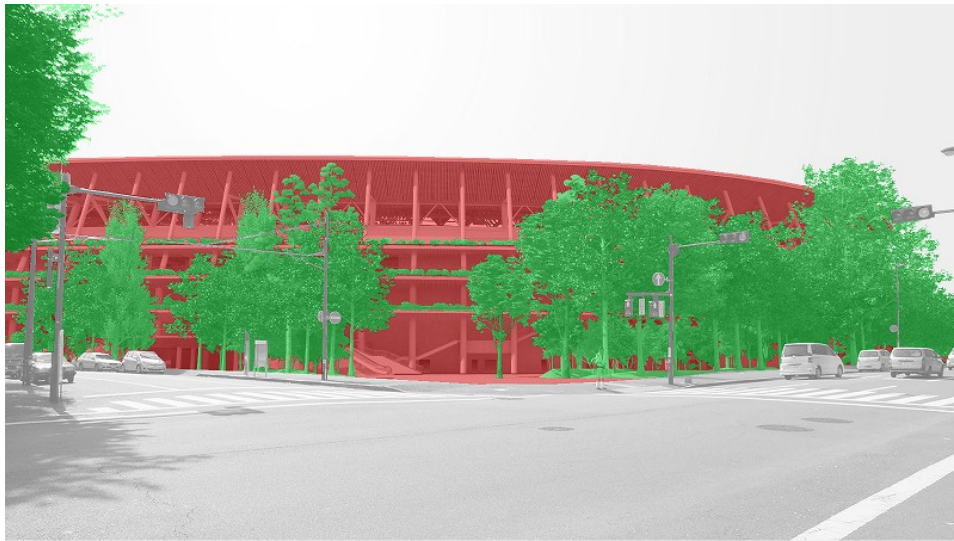
計画建築物が正面に視認できる。計画建築物の出現により、現況よりも建築物の占める割合は増加し、緑視率は減少する。

フォローアップ調査結果

予測のとおり、計画建築物が正面に視認できる。緑視率は、現況と比較して約 14.4 ポイント減少、予測結果と比較して約 5.3 ポイント減少する。計画地の植栽が生育途中のため、予測結果よりも緑視率が減少したと考えられる。

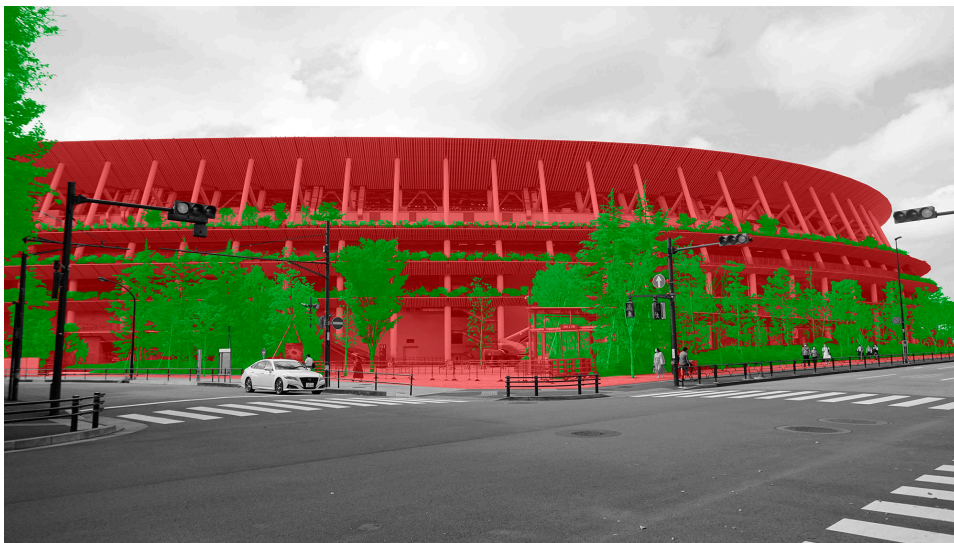
写真 8.7-15 緑視率の状況(No.3: 仙寿院交差点)

予測結果



(独) 日本スポーツ振興センター提供資料を基に作成

フォローアップ調査結果



予測結果

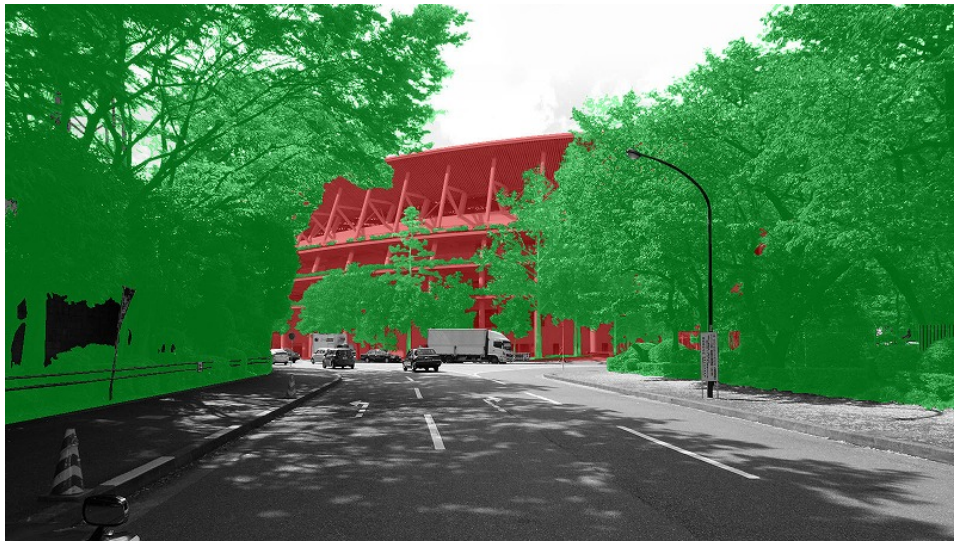
計画建築物が正面に視認できる。視野に占める建築物の割合は大きく変化せず、緑視率は増加する。

フォローアップ調査結果

予測のとおり、計画建築物が正面に視認できる。緑視率は、現況と比較して約 2.9 ポイント増加、予測結果と比較して約 9.9 ポイント減少する。計画地の植栽が生育途中のため、予測結果よりも緑視率が減少したと考えられる。

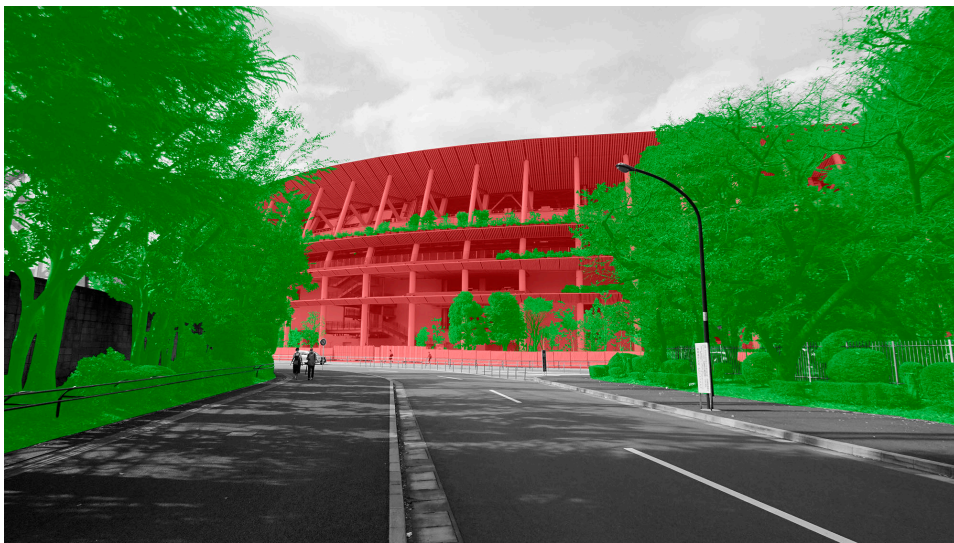
写真 8.7-16 緑視率の状況 (No.4 : 聖徳記念絵画館西)

予測結果



(独) 日本スポーツ振興センター提供資料を基に作成

フォローアップ調査結果



予測結果

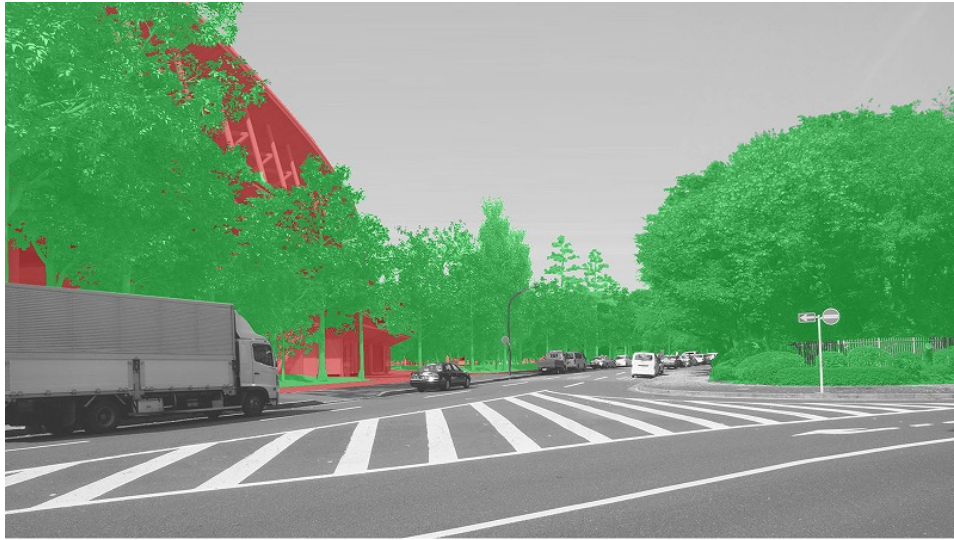
計画建築物が正面に視認できる。計画建築物の出現により、現況よりも建築物の占める割合は増加するが、緑視率はほとんど変わらない。

フォローアップ調査結果

予測のとおり、計画建築物が正面に視認できる。緑視率は、現況と比較して約 12.8 ポイント減少、予測結果と比較して約 12.3 ポイント減少する。計画地周辺の植物の繁茂減少及び計画地の植栽が生育途中のため、予測結果よりも緑視率が減少したと考えられる。

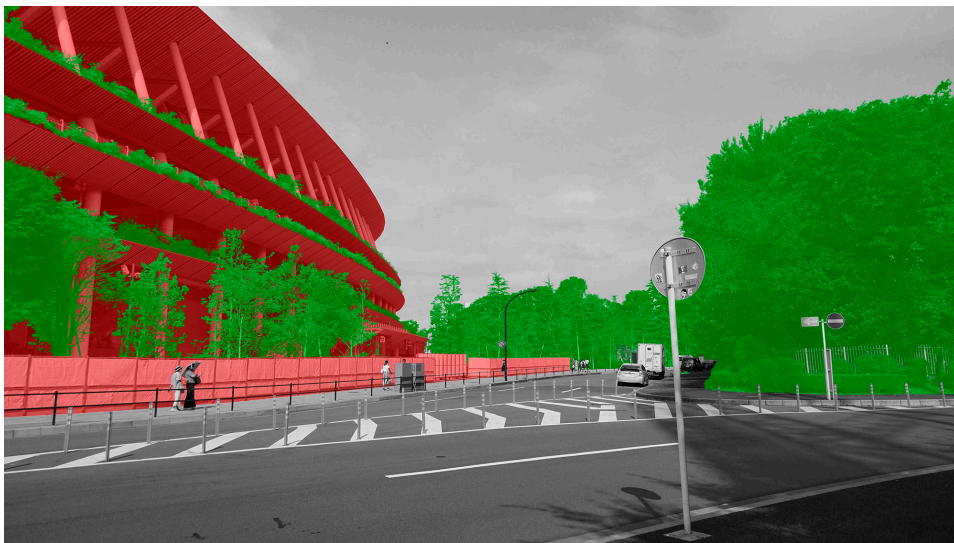
写真 8.7-17 緑視率の状況 (No.5 : 明治神宮第二球場北東)

予測結果



(独) 日本スポーツ振興センター提供資料を基に作成

フォローアップ調査結果



予測結果

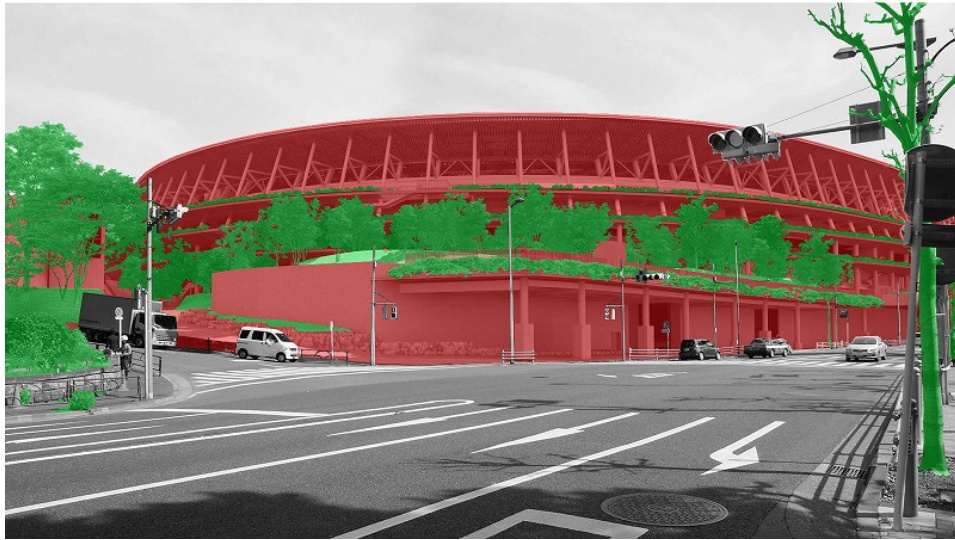
樹木越しに計画建築物の一部が視認できる。視野に占める建築物の割合は大きく変化せず、緑視率は増加する。

フォローアップ調査結果

予測のとおり、樹木越しに計画建築物の一部が視認できる。緑視率は、現況と比較して約 1.9 ポイント減少、予測結果と比較して約 11.3 ポイント減少する。計画地の植栽が生育途中のため、予測結果よりも緑視率が減少したと考えられる。

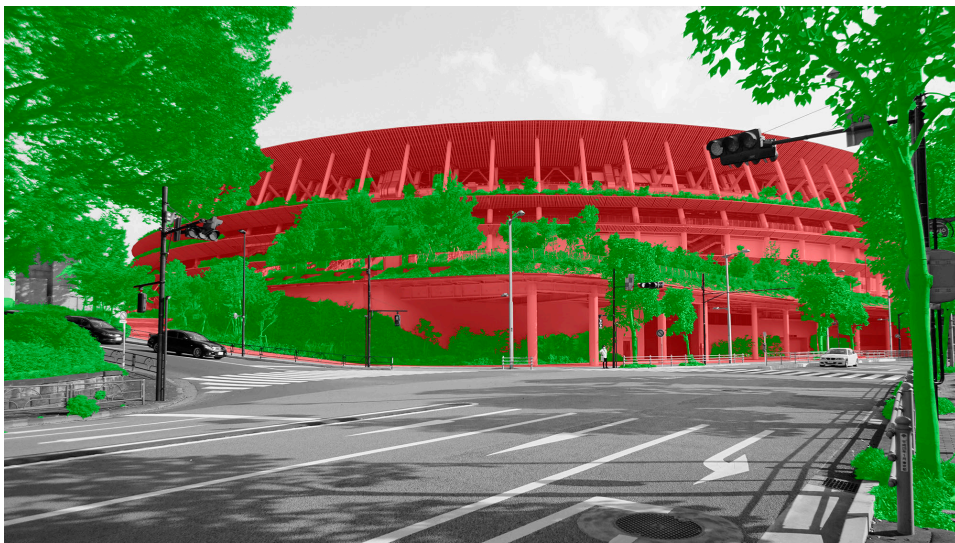
写真 8.7-18 緑視率の状況 (No.6 : 明治神宮第二球場北)

予測結果



(独) 日本スポーツ振興センター提供資料を基に作成

フロアアップ調査結果



予測結果

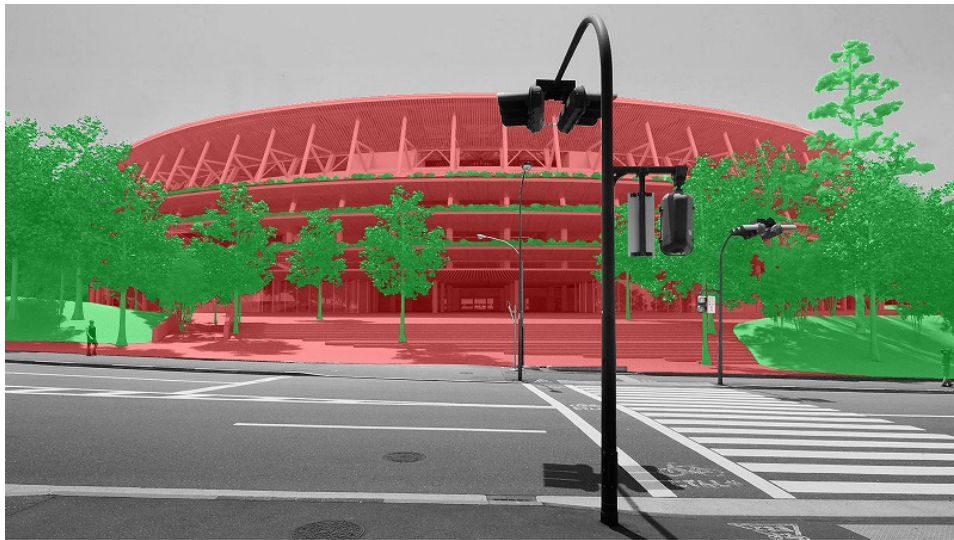
計画建築物が正面に視認できる。計画建築物の出現により、建築物の占める割合は増加し、緑視率は減少する。

フロアアップ調査結果

予測のとおり、計画建築物が正面に視認できる。緑視率は、現況と比較して約 2.7 ポイント減少、予測結果と比較して約 19.1 ポイント増加する。計画地周辺の植物の繁茂により、予測結果よりも緑視率が増加したと考えられる。

写真 8.7-19 緑視率の状況 (No. 7 : 外苑橋交差点)

予測結果



(独) 日本スポーツ振興センター提供資料を基に作成

フォローアップ調査結果



予測結果

計画建築物が正面に視認できる。計画建築物の出現により、建築物の占める割合は増加し、緑視率は減少する。

フォローアップ調査結果

予測のとおり、計画建築物が正面に視認できる。緑視率は、現況と比較して約 13.8 ポイント減少、予測結果と比較して約 12.4 ポイント減少する。計画地の植栽が生育途中のため、予測結果よりも緑視率が減少したと考えられる。

写真 8.7-20 緑視率の状況 (No.8 : 旧フットサルコート前)

オ. 景観阻害要因の変化の程度

本事業の実施に伴い、計画建築物は周辺地域より視認され、一部地域では計画建築物が視野に占める割合が増加するものの、計画建築物は、日本の伝統的な建築を想起させる、連続する軒庇の水平ラインと深い陰影によって、周辺の木々と調和した外観となっている。また、「大地の杜」として、周囲の多様なみどりの景観に合わせ、聖徳記念絵画館外周などのまとまった緑に隣接する計画地東・北側は階層構造の樹林構成の緑地とし隣接する緑との連続する緑を創出（「深緑の杜」）、広いオープンスペースの南側は大地に大樹となる樹木を植栽し大きな緑が人を迎え入れる空間を創出（「大樹の里庭」）、街に隣接する西側は渋谷川の記憶の継承と親しみのある里庭の景観を創出（「水辺の里庭」）され、周囲の多様な景観との調和が図られている。計画建築物5階には、「大地の杜」と行き来できる「空の杜」として、ススキや彩りある草花、花木を連続させ、計画地の原風景のおおらかさを想起させる空中の庭園が整備されている。

以上のことから、景観阻害要因に著しい変化は生じていない。

2) 予測条件の状況

ア. 計画建築物の状況(配置、形状、高さ等)

計画建築物の状況(配置、形状、高さ等)は、「4. 新国立競技場(オリンピックスタジアム)の計画の目的及び内容 4.2 内容 4.2.4 事業の基本計画 (1) 配置計画」(p.9～12 参照)に示したとおりである。

イ. 緑化計画

緑化計画は、「4. 新国立競技場(オリンピックスタジアム)の計画の目的及び内容 4.2 内容 4.2.4 事業の基本計画 (8) 緑化計画」(p.20～23 参照)に示したとおりである。

3) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.7-5(1)～(6)に示すとおりである。なお、景観に関する問合せはなかった。

表 8.7-5(1) ミティゲーションの実施状況(東京 2020 大会の開催後)

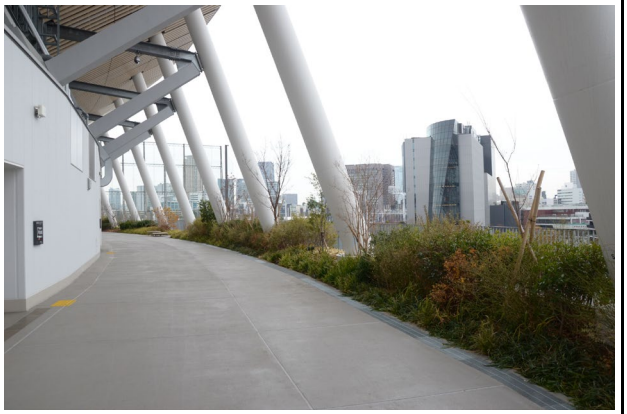
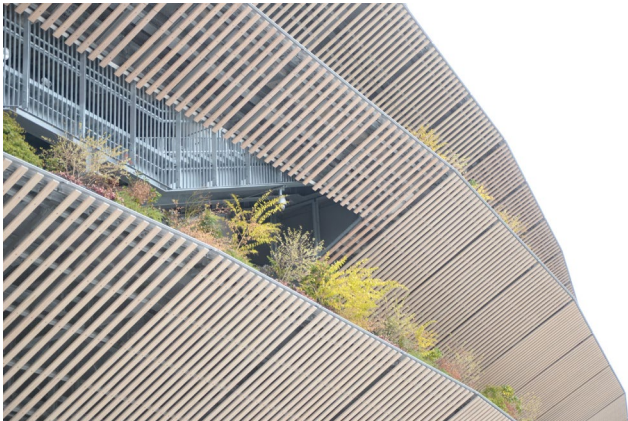
ミティゲーション	・最大 8 万席となる観客席をコンパクトに配置し、フラットな屋根架構により建物高さを約 50m とし、周辺の景観に調和する計画としている。
実施状況	最大 6 万人収容可能な観客席をコンパクトに配置し、建物高さを約 47m とした。
 	
	外観 観客席と屋根の状況
ミティゲーション	・最外周柱の最上部を内側に傾斜させて、周辺の圧迫感を軽減する計画としている。
実施状況	最外周柱の最上部を内側に傾斜させ、圧迫感の軽減が図られた。
 	
	最外周柱の最上部 最上部の最外周柱
ミティゲーション	・日本の伝統的な建築を想起させる、連続する軒庇の水平ラインと深い陰影によって、周辺の木々と調和した外観とする計画としている。
実施状況	連続した軒庇を整備することによって水平ラインと深い陰影を形成した。
 	
	連続した軒庇 周辺の木々と計画建築物の調和

表 8.7-5(2) ミティゲーションの実施状況(東京 2020 大会の開催後)

ミティゲーション	・屋根の庇や軒庇の見上げ部は全周を連続した縦格子で仕上げる計画としている。外壁を「面」ではなく「線」で構成することにより、「和」を想起させる繊細な陰影が周囲の木々に溶け込み、長大な屋根や壁面による圧迫感を軽減させる計画としている。
実施状況	屋根の庇や軒庇の見上げ部は全周を連続した縦格子とし、外壁を分節、線で構成することにより、面的な圧迫感の軽減が図られた。
 軒庇の連続した縦格子	 見上げ部の状況
ミティゲーション	・軒庇の連続した縦格子により、日本建築の要素である垂木を想起させる外観を形成する計画としている。水平方向にも高さ方向にも展開した「繰り返し」の構成により、日本らしさをより強調する計画としている。
実施状況	軒庇の連続した縦格子により、日本建築の要素である垂木を想起させる外観を形成した。
 軒庇の連続した縦格子（鉛直方向）	 軒庇の連続した縦格子（水平方向）

表 8.7-5(3) ミティゲーションの実施状況(東京 2020 大会の開催後)

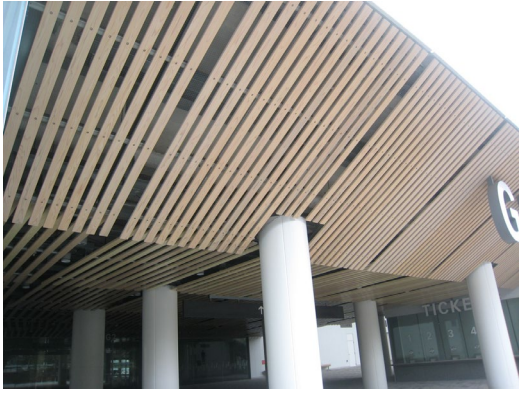
ミティゲーション	・外周の低層部は水平に伸びる軒庇と鉛直柱の構成とし、軸組によって生まれた、陰影のある印象的な日本らしい外観とする計画としている。
実施状況	外周の低層部は水平に伸びる軒庇と鉛直柱の構成とし、軸組によって生まれた、陰影のある印象的な日本らしい外観を形成した。   外周の低層部の軒庇と鉛直柱 外周の低層部の軒庇と鉛直柱
ミティゲーション	・各軒庇上部にはプランターを配置し、日本の野草など四季を感じることが可能な計画としている。
実施状況	各軒庇上部には、季節の花などを楽しめるアベリア、レンギョウ、ムラサキシキブ等をプランターに配置した。   3～5階のプランター植栽 3～5階のプランター植栽

表 8.7-5(4) ミティゲーションの実施状況(東京 2020 大会の開催後)

ミティゲーション	・「大地の杜」として、周囲の多様なみどりの景観に合わせ、聖徳記念絵画館外周などのまとまった緑に隣接する計画地東・北側は階層構造の樹林構成の緑地とし隣接する緑との連続する緑を創出(「深緑の杜」)、広いオープンスペースの南側は大地に大樹となる樹木を植栽し大きな緑が人を迎え入れる空間を創出(「大樹の里庭」)、街に隣接する西側は渋谷川の記憶の継承と親しみのある里庭の景観を創出(「水辺の里庭」)することで周囲の多様な景観との調和を図る計画としている。計画建築物5階には、「大地の杜」と行き来できる「空の杜」として、ススキや彩りある草花、花木を連続させ、計画地の原風景のおおらかさを想起させる空中の庭園を整備する計画としている。
実施状況	
聖徳記念絵画館外周に接する計画地東・北側の外構部には、高木、亜高木、低木を混植した階層構造の樹林構成の緑地を創出し、隣接する緑との連続性を確保した。また、南側のオープンスペースには、大樹の里庭を整備した。北側地上部及び西側のペDESTリアンデッキ下部には、せせらぎを整備した。計画建築物5階には、「空の杜」を整備した。	
高木、亜高木、低木を混植した階層構造緑化 (計画地北東側) ペDESTリアンデッキ下部のせせらぎ	
北西側のせせらぎ 5階空の杜	
ミティゲーション	・木の縦格子には国産のスギの規格材を採用する計画としている。設置箇所は軒裏などの雨がかりの少ない部分とし、さらに加圧注入処理(K3仕様)とし、耐久性を高め美観を維持する計画としている。
実施状況	
軒裏などの雨がかりの少ない部分の木の縦格子には、加圧注入処理(K3仕様)を施した国産のスギの規格材を採用した。	

表 8.7-5(5) ミティゲーションの実施状況(東京 2020 大会の開催後)

ミティゲーション	・外周に壁がないことで、日本の気候風土を活かした風通しの良い空間を創出する計画としている。彫の深い軒下は、「木漏れ日」のような陰と緑を望める縁側状の空間を創出する計画としている。
実施状況	外周には壁を設けず、彫の深い軒下は、「木漏れ日」のような陰と緑を望める縁側状の空間を創出した。  外周  軒下縁側状の空間
ミティゲーション	・植栽樹種は、計画地の潜在自然植生や代償植生の構成種を中心に選択するとともに、既存樹木の保存、移植利用を積極的に行い、周辺のみどりの景観との調和を図った植栽計画としている。
実施状況	計画地北側のマテバシイ、計画地南側のヒマラヤスギ、ケヤキ、スダジイ等の既存樹木の保存、移植利用を行った。また、新植した樹種は、潜在自然植生（スダジイ・ヤブコウジ群集）の構成種を用いた。  計画地北側の保存樹木（マテバシイ）  計画地南側の保存樹木（ヒマラヤスギ）

表 8.7-5(6) ミティゲーションの実施状況(東京 2020 大会の開催後)

ミティゲーション	・花がら摘み、つるの誘引、スポット灌水、花後の施肥、枯枝整理、支柱調整を行い、季節感や原風景のおおらかさなど特徴ある風景をつくる。
実施状況	植栽樹種のつるの誘引、スポット灌水、花後の施肥、枯枝整理、支柱調整等の維持管理を行い、開花や紅葉等の季節感のある生物の生育・生息環境と生物・生態系の創出に努めた。 つるの誘引 灌漑用の蛇口 支柱での調整 支柱での調整
ミティゲーション	・緑化植栽後の樹木の状況(植栽状況、生育状況等)、植栽散水、剪定、施肥等の維持管理の実施状況について確認し、必要に応じて適切な追加対策を講じることにより、良好な景観の保持に努める計画としている。また、緑の状況については、フォローアップ調査で確認する。
実施状況	植栽後の樹木の状況(植栽状況、生育状況等)について確認し、維持管理計画を定めて適正な管理を実施した。 植栽散水

(2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

1) 予測した事項

ア. 主要な景観の構成要素の改変の程度及びその改変による地域景観の特性の変化の程度

計画地は明治神宮外苑に隣接しており、当該エリアは、大正期に整備された明治神宮外苑の都市構造を基盤として、風格のある都市景観と苑内の樹林による豊かな自然環境を有している。また、周辺には、東京体育館や明治神宮外苑野球場、秩父宮ラグビー場等の多様な規模や種類のスポーツ施設が集積している。

計画建築物は、日本の伝統的な建築を想起させる、連続する軒庇の水平ラインと深い陰影によって、周辺の木々と調和した外観となっている。軒庇の連続した縦格子により、日本建築の要素である垂木を想起させる外観を形成し、水平方向にも高さ方向にも展開した「繰り返し」の構成により、日本らしさがより強調されている。外周の低層部は水平に伸びる軒庇と鉛直柱の構成とし、軸組によって生まれた、陰影のある印象的な日本らしい外観となっている。

また、「大地の杜」として、周囲の多様なみどりの景観に合わせ、聖徳記念絵画館外周などのまとまった緑に隣接する計画地東・北側は階層構造の樹林構成の緑地とし隣接する緑との連続する緑を創出（「深緑の杜」）、広いオープンスペースの南側は大地に大樹となる樹木を植栽し大きな緑が人を迎え入れる空間を創出（「大樹の里庭」）、街に隣接する西側は渋谷川の記憶の継承と親しみのある里庭の景観を創出（「水辺の里庭」）することで周囲の多様な景観との調和が図られている。計画建築物5階には、「大地の杜」と行き来できる「空の杜」として、ススキや彩りある草花、花木を連続させ、計画地の原風景のおおらかさを想起させる空中の庭園を整備した。また、花がら摘み、つるの誘引、スポット灌水、花後の施肥、枯枝整理、支柱調整を行い、季節感や原風景のおおらかさなど特徴ある風景がつくられているほか、緑化植栽後の樹木の状況（植栽状況、生育状況等）、植栽散水、剪定、施肥等の維持管理の実施状況について確認し、必要に応じて適切な追加対策を講じることにより、良好な景観の保持に努めている。

以上のことから、予測結果と同様に、周囲の多様なみどりの景観に調和した景観が形成されていると考える。

イ. 代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度

計画地周囲の主要な眺望点からの眺望については、計画建築物が視野に占める割合は増加するが、計画建築物は、日本の伝統的な建築を想起させる、連続する軒庇の水平ラインと深い陰影によって、周辺の木々と調和した外観となっている。

また、「大地の杜」として、周囲の多様なみどりの景観に合わせ、聖徳記念絵画館外周などのまとまった緑に隣接する計画地東・北側は階層構造の樹林構成の緑地とし隣接する緑との連続する緑を創出（「深緑の杜」）、広いオープンスペースの南側は大地に大樹となる樹木を植栽し大きな緑が人を迎え入れる空間を創出（「大樹の里庭」）、街に隣接する西側は渋谷川の記憶の継承と親しみのある里庭の景観を創出（「水辺の里庭」）することで周囲の多様な景観との調和が図られている。計画建築物5階には、「大地の杜」と行き来できる「空の杜」として、ススキや彩りある草花、花木を連続させ、計画地の原風景のおおらかさを想起させる空中の庭園を整備した。また、花がら摘み、つるの誘引、スポット灌水、花後の施肥、枯枝整理、支柱調整を行い、季節感や原風景のおおらかさなど特徴ある風景がつくられているほか、緑化植栽後の樹木の状況（植栽状況、生育状況等）、植栽散水、剪定、施肥等の維持管理の実施状況について確認し、必要に応じて適切な追加対策を講じることにより、良好な景観の保持に努めている。

周辺地域においては、計画建築物の一部が視認されるが、眺望景観に著しい変化はない。

以上のことから、予測結果と同様に、周辺の多様なみどりの景観に調和した景観が形成され、聖徳記念絵画館の広大な眺めに著しい変化は与えていないと考える。

ウ. 圧迫感の変化の程度

計画建築物による形態率の変化は、No.a 地点では予測結果より約 2.0 ポイント増加した。計画地周辺北側の建物の新築により予測結果を上回った。No.c 地点では予測結果より約 2.5 ポイント減少した。計画地北側の建築物の変化や南側の道路標識の撤去等により予測結果を下回った。No.b、d 地点では予測結果より約 0.2～0.8 ポイント減少であり、予測結果と同程度であった。

計画建築物は、フラットな屋根架構により建物高さを約 47m とし、最外周柱の最上部を内側に傾斜させて、周辺の圧迫感を軽減した。また、屋根の庇や軒庇の見上げ部は全周を連続した縦格子で仕上げ、外壁を「面」ではなく「線」で構成することにより、「和」を想起させる繊細な陰影が周囲の木々に溶け込み、長大な屋根や壁面による圧迫感を軽減させた。

以上のことから、予測結果と同様に、圧迫感の軽減が図られたと考える。

エ. 緑視率の変化の程度

計画建築物による緑視率の変化は、No.1 地点では予測結果どおりであった。No. 3～6 及び No. 8 地点では、予測結果より約 5.3～12.4 ポイント減少した。これは計画地の植栽が生育途中のためと考えられる。No.7 地点では予測結果より約 19.1 ポイント増加した。これは計画地及び計画地周辺の植栽の繁茂によるものと考えられる。

計画地には「大地の杜」として、周囲の多様なみどりの景観に合わせ、聖徳記念絵画館外周などのまとまった緑に隣接する計画地東・北側は階層構造の樹林構成の緑地とし隣接する緑との連続する緑を創出（「深緑の杜」）、広いオープンスペースの南側は大地に大樹となる樹木を植栽し大きな緑が人を迎え入れる空間を創出（「大樹の里庭」）、街に隣接する西側は渋谷川の記憶の継承と親しみのある里庭の景観を創出（「水辺の里庭」）することで周囲の多様な景観との調和が図られている。計画建築物 5 階には、「大地の杜」と行き来できる「空の杜」として、ススキや彩りある草花、花木を連続させ、計画地の原風景のおおらかさを想起させる空中の庭園が整備されている。

オ. 景観阻害要因の変化の程度

計画建築物は周辺地域より視認され、一部地域では計画建築物が視野に占める割合は増加するが、計画建築物は、日本の伝統的な建築を想起させる、連続する軒庇の水平ラインと深い陰影によって、周囲の木々と調和した外観となっている。

また、「大地の杜」として、周囲の多様なみどりの景観に合わせ、聖徳記念絵画館外周などのまとまった緑に隣接する計画地東・北側は階層構造の樹林構成の緑地とし隣接する緑との連続する緑を創出（「深緑の杜」）、広いオープンスペースの南側は大地に大樹となる樹木を植栽し大きな緑が人を迎え入れる空間を創出（「大樹の里庭」）、街に隣接する西側は渋谷川の記憶の継承と親しみのある里庭の景観を創出（「水辺の里庭」）することで周囲の多様な景観との調和が図られている。計画建築物 5 階には、「大地の杜」と行き来できる「空の杜」として、ススキや彩りある草花、花木を連続させ、計画地の原風景のおおらかさを想起させる空中の庭園が整備されている。また、花がら摘み、つるの誘引、スポット灌水、花後の施肥、枯枝整理、支柱調整を行い、季節感や原風景のおおらかさなど特徴ある風景がつけられているほか、緑化植

栽後の樹木の状況(植栽状況、生育状況等)、植栽散水、剪定、施肥等の維持管理の実施状況について確認し、必要に応じて適切な追加対策を講じることにより、良好な景観の保持に努めている。

以上のことから、予測結果と同様に、景観阻害要因に著しい変化は生じなかったと考える。